

愛知県立一宮特別支援学校（肢体不自由）

1 学校概要

設置部・設置学科	幼稚部・小学部・中学部・高等部（普通科）
特色ある取組	
<p>○県内の肢体不自由特別支援学校の中で、唯一、幼稚部があります。</p> <p>○日常的に医療的ケア（吸引・経管栄養・導尿等）が必要な幼児児童生徒には、保護者の協力を得ながら、看護師が医療的ケアを実施しています。</p> <p>○給食は摂食機能に応じて、通常食、ペースト状、きざみ食など7種類の形態で提供しています。</p> <p>○遠距離通学をカバーするために寄宿舎が設置されています。</p>	
地域とのつながり・地域での役割	
<p><学校間交流> 葉栗小学校、葉栗中学校、一宮北高校との授業交流や学習発表会、文化祭での作品交流、生徒会執行部交流を行っています。</p> <p><居住地校交流> 小学部と中学部の希望者は、年に数回、居住地の小学校や中学校で授業交流を行っています。</p> <p><自立活動ケース研修、支援機器相談会等> 大学、医療機関等の専門機関と連携し、個々にアドバイスを受け、学校や家庭生活に生かす取組を行っています。</p> <p><みんなプロジェクト> 地域の繊維関連機関・企業など地域の地場産業と連携し、PTAや職員も含め、障害がある子どもたちの生活を豊かにする小物制作等を行っています。</p>	
高等部卒業生の主な進路	
<p><進学> 大学</p> <p><一般就労> 公務員、企業</p> <p><福祉就労> 生活介護等、就労継続支援、就労移行支援 等</p> <p><その他> 福祉型、医療型入所施設</p>	
一言アピール	
<p>幼児児童生徒が『できた、分かった』が実感でき、楽しく充実した学校（寄宿舎）生活を送ることができるよう、職員一丸となって全力で支援します。</p>	

2 スクール・ポリシー

このような幼児児童生徒の育成を目指します	
<p><幼稚部> なかよく遊ぶ子</p> <p><小学部> いきいきと学ぶ子</p> <p><中学部> 自分の力を伸ばす子</p> <p><高等部> 自分らしく生きる子</p>	
このように学びます	
<p>○一人一人の障害の状態や将来の姿を見据えて作成した個別の指導計画を基に、三つの教育課程で個々の学びを進めます。</p> <p>○日常生活とのつながりを意識した体験的な学習を通して、社会性の向上を図ります。</p>	

令和4年度 愛知県立一宮特別支援学校「学校経営方針」

本校の教育目標

幼・小・中・高の各部の独自性と一貫性を柱とし、幼児児童生徒一人一人の特性と能力に応じた教育をすすめ、家庭や社会の成員として、力強く生き抜く人間を育成する。

校訓 **たくましく ゆたかに すこやかに**

本校がめざす「子ども像」

部	各部でめざす「子ども像」
高等部	自分らしく生きる子
中学部	自分の力を伸ばす子
小学部	いきいきと学ぶ子
幼稚部	なかよく遊ぶ子

本年度のスローガン「みんなの笑顔のために」

重点目標① 指導・支援の充実

- 正しい実態把握と適切な課題設定
- 学習環境の整備（障害特性・UD）
- 有機的なTT（人数以上の教育的効果）
- 新学習指導要領の実施と定着（R4～※高）
- キャリア教育の推進
- 特別支援教育のセンター的機能の充実
- 交流及び共同学習の推進（直接・間接・遠隔）
- 学校内資源の活用（教職員の特技）
- 学校外資源の活用（ICTの活用）
- 一人1台タブレットの積極的利用
- 研修機会の充実（多様な研修の方法）
- . . .

重点目標② 安全で安心な学校づくり

- 開かれた学校の推進（授業参観の実施、関係機関・家庭との連携、情報発信の充実）
- 教職員の人権意識を高める研修の実施
- 環境整備（感染症対策、防犯、防災、美化）
- ヒヤリ・ハット事例の共有と学校危機管理マニュアル等の随時見直し
- 実際の災害や緊急事態を想定した訓練の実施
- . . .

重点目標③ 教職員の多忙感解消

- 文書作成業務の効率化（様式・名簿等の一元管理）
- 整理整頓（フォルダ内、紙資料、県費購入物品等）
- 教材等の共有化
- 会議の精選（内容、人、方法、回数）
- 開錠・施錠時刻の徹底
- 長期休業の有効活用（業務シェアリング）
- 職種や分掌等を越えた横断的な取組による業務改善
- 校務補助員導入と課題整理
- . . .

本年度の課題

- 【指導支援の充実～楽しい（できた、分った）学校づくり～】
- ・感染症対策を継続しつつも、ICT機器を活用した「主体的・対話的で深い学び、個別最適な学び」を推進し、楽しく充実した学校（寄宿舎）生活を送ることができるようにする。
- 【安全で安心な学校づくり】
- ・整理整頓が行き届き、教職員の連携と高い人権意識・専門性を生かした環境を提供する。
- 【教職員の多忙感解消～教職員が元気で質の高い学校づくり～】
- ・業務改善に向けた取組により在校時間を縮減し、ワークライフバランスを保ちながら働きがいのある職場づくりを目指す。
- 【その他】 ● 重度・重複・多様化への対応

今年度の重点目標へ個々の教職員、各分掌等がベクトルを合わせることで、下位項目として示したワードは具体的方策を立てる際の参考とする。

家庭

関係機関

学校

R4年度 一宮特別支援学校の現状

※（ ）内は訪問人数、外数

在籍数	幼4	幼5	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	訪問	合計	
男子	2	2	9	8	9	4	2(1)	5(1)	6	8	6	7	10	10	2	90	
女子	2	5	5	6	3	3(1)	7	4(1)	2	3	3	10	5	5	2	65	
計	4	7	14	14	12	7(1)	9(1)	9(2)	8	11	9	17	15	15	4	155	
学級数	3		23						10			14			2	52	
教職員数	教頭・教諭110名（R3 108名） ※実習助手、寄宿舎指導員等除く																110

本校の存在意義 ※裏返せば本校の使命でもある。

保護者目線（なぜ本校を選ぶ？）：①特別支援教育の専門性、②安全・安心な環境（看護師常駐、医ケアの充実、. . .）、③進路指導の充実、④保護者同士の連携、⑤. . .

地域目線（何を期待している？）：①特別支援教育のセンター的機能、②. . .

学校の強み
 ○多才で専門性の高い教職員集団 ○自然豊かな環境 ○幼～高まで最長14年間の継続
 ○広い敷地 ○近隣に消防署や小・中・高等学校 ○寄宿舎設置 ○自校給食 ○. . .